

プログラミング支援ツール NP4H-SEDBV3 バージョンアップについて

1. 対象機種

IEC61131-3 準拠プログラミング支援ツール SX-Programmer

形式	品名	最新バージョン	バージョンアップ時期
NP4H-SEDBV3	Expert (D300win)	V3.4.2.0	2007年8月

2. バージョンアップサービスの概要

ホームページからのバージョンアップサービスは、旧版の Expert (D300win) をお持ちの方を対象として、アップグレード機能を用いて最新の Expert (D300win) 使用環境を提供します。

ホームページからのダウンロードにより、最新の Expert (D300win) を容易に取得できます。

SX-Programmer Expert (D300win) V3.4.2.0 用アップデートファイル : ExpertUpdateV3420.exe

3. 最新バージョン V3.4.2.0 の主な変更内容 (2007年8月)

(1) ボードコントローラ対応機能の拡張

- ・ボードコントローラの CPU パラメータに、高速入力コネクタへの信号の論理を立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジから選択可能とする機能を追加しました。
- ・ボードコントローラの CPU パラメータの簡易 CPU リンク機能に、リンク局番を外部から設定する機能を追加しました。
- ・ボードコントローラのカレンダー情報に曜日データとカレンダー書き込み要求を追加しました。

(2) 故障診断機能の改良

SPH300 の故障診断機能に、故障状態を自動解析して表示する「故障解析」機能を追加しました。

※「故障解析」機能を使用する場合、Microsoft 社製 [.NET Framework 2.0] のインストールが必要です。

4. 主なバージョンアップ履歴

(1) V3.4.1.0 (2007年5月)

① SPB の「バッテリー異常検出しない」モード対応

SPB の CPU パラメータに「電池異常検出」の項目を追加しました。

② モニタ値表示の改良

10進表示に「ゼロサプレスあり」、実数表示に「標準の小数点表記」の表示機能を追加しました。

(2) V3.4.0.0 (2007年2月)

① 基本機能改良

変数エディタの EXCEL 連携、変数プロパティダイアログ、クロスリファレンス自動更新、プロジェクト比較、ウォッチウィンドウへの配列/構造体登録の、各機能を改良しました。

② ラダーエディタの機能改良

左母線の整列、ワークシート分割、回路コメントジャンプの、各機能を改良しました。

③ SPH300 ユーザ ROM 運転なしモードへの対応

④ SPH2000 冗長化 CPU モジュール (NP1PM-256H) 対応

⑤ V3.3.7.1 の不具合修正

グローバル変数シートの容量が大きい場合、クロスリファレンスの作成を実行すると Expert が強制終了することがある不具合を修正しました。

(3) V3.3.7.1 (2006年12月)

① V3.3.7.0 の不具合修正

SPH200 または SPB に対してプロジェクトをダウンロードすると、アプリケーションエラーになる不具合を修正しました。

(4) V3.3.7.0 (2006年11月)

- ① ボードコントローラ Tリンクオプションカード対応

(5) V3.3.6.0 (2006年10月)

- ① IPアドレスリスト ネットワーク機器検索機能
IPアドレスリスト機能にネットワーク機器検索を追加しました。
- ② ZIPファイルのオフライン保存機能
ZIPファイルをパソコンのディスクに保存する機能を追加しました。

(6) V3.3.5.0 (2006年8月)

- ① サーボシステム FALDIC ALPHA 5 対応
- ② V3.3.4.1 の不具合修正
SPH300EX 以外の機種にて、変数名の最後が ' _E' のグローバル変数を AT 指定するとコンパイルエラーになる不具合を修正しました。

(7) V3.3.4.1 (2006年7月)

- ① 高性能 CPU モジュール SPH300EX 対応
- ② V3.3.3.0 の不具合修正
SPH2000 (NP1PM-48E/256E) にて、FTP アクセス機能が使用できない不具合を修正しました。

(8) V3.3.3.0 (2006年5月)

- ① パスワード機能の拡充
前バージョンで追加した、PLCオンライン操作の制限設定機能に対し、ユーザにてアクセス制限範囲を設定する機能を追加しました。パスワードによって制限される機能はアクセスレベルごとに設定できます。
- ② クロスリファレンス付きラダープログラム印刷機能追加
プロジェクト印刷機能にて、クロスリファレンス情報をプログラム印刷ページと同一ページに印刷する機能を追加しました。
- ③ 変数定義ダイアログの設定改善
変数定義ダイアログにて、グローバル変数グループの指定方法の「ワークシートの全変数を表示」機能のデフォルト状態を「設定有り」に変更しました。
- ④ 変数情報のツールチップ表示
ワークシート上に各変数のデータ形、初期値、コメントなどをツールチップ形式で表示します。

(9) V3.3.2.0 (2006年1月)

- ① パスワード機能の拡張
PLCオンライン操作の制限を設定する機能を追加しました。
本機能を使用してアクセス認証用パスワードを設定することにより、PLCへの操作をレベル1、レベル2、レベル3、の3段階で制限することが可能となります。
- ② 変数表示モードの一括リセット 設定
LD/FBDワークシートにおける変数表示モードを一挙動でデフォルト設定に戻す機能を追加しました。
- ③ SPH300 ファームウェア対応 (V**65)
 - ・ 縮退立上げ時間短縮機能
 - ・ 強制設定状態継続運転

(10) V3.3.1.0 (2005年11月)

- ① ボードコントローラ対応
 - ・ システム支援機能の追加
システム構成、CPU動作定義、CPUメモリ割付、高速カウンタ設定、RS485設定
 - ・ オンライン機能の追加
コントロールダイアログ、パスワード機能、デバッグ機能、メモリ転送

(11) V3.3.0.0 (2005年8月)

- ① システム定義 未実装操作の改良
1クリックでモジュールの実装/未実装を切り替えることが可能としました。また、未実装一括設定機能の1クリック操作により、構成ツリー上で選択されているモジュールとその階層下のモジュールを一括で未実装に設定または設定解除することができます。

②SPH2000対応

新系列CPUモジュールSPH2000に対応しました。

(12)V3.2.1.0 (2005年6月)

①製品名称の変更

従来の名称「D300win」より、「SX-Programmer Expert (D300win)」に名称を変更しました。

②変数エディタの変更

Microsoft Excelとの連携、編集操作の改良、変数の一括挿入等の改良をしました。

③プロジェクト編集の改良

圧縮プロジェクト(ZWT ファイル)の解凍、プロジェクトツリーエディタの機能改良をしました。

④印刷機能の改良

プロジェクト印刷のページ指定印刷、変数ワークシートの折り返し印刷を追加しました。

⑤SPH300 I/O領域拡張への対応

SPH300 (V**64以降)のI/O領域拡張機能に対応しました。

(13)V3.2.0.0 (2005年4月)

①カーネル機能のバージョンアップ

- ・変数定義ダイアログの改善
- ・ファンクション/FB定義ダイアログの改善
- ・変数ワークシートの操作改善
- ・POUグループ機能の追加
- ・POUインポート/エクスポート機能の拡張
- ・サンプリングトレース機能の拡張
- ・メッセージウィンドウの改善

②プロジェクト履歴機能

ダウンロード成功後(POU変更含む)プロジェクトの履歴を保存する機能を追加しました。

③故障診断機能の改良

詳細RASに表示されるメモリダンプ表示の一部を文書表示します。

(14)V3.1.4.0 (2004年10月)

①プロセッサリンクモジュール最大構成数拡張対応

プロセッサリンクモジュール(PII/c、FL-netなど)の最大構成数を8台へ拡張しました。

②システム定義の設定追加

システム定義のシステム動作定義設定に「CPU"0"なしシステム立上げ」設定を追加しました。
システムプロパティのシステム縮退立上げ動作定義に「拡張設定」を追加しました。

(15)V3.1.3.0 (2004年8月)

①SPH CPUボード サンプリングトレース機能対応

サンプリングトレース機能を実装したCPUボード(NP3PS-SX1PGS74 V**63)へ接続時、高精度サンプリングトレースが起動するよう対応しました。

(16)V3.1.2.0 (2004年5月)

①8kステップPOU対応

SPH300 (V**62以降)のPOU 8kステップに対応しました。

②SX制御ユーティリティの改良

メッセージマネージャによるオンライン接続に対応しました。

これにより、Expert(D300win)と制御ユーティリティが、同一ポートでの同時通信が可能になります。

(17)V3.1.1.0 (2003年12月)

①サンプリングトレース対応

SPH300 (V**61以降)のサンプリングトレース機能に対応しました。

②オンライン機能の改善

故障診断機能において、システム重故障集約情報に表示されるPOU番号に対応したPOU名を表示するように改良しました。

(18) V3.1.0.0 (2003年6月)

- ①小形PLC SPB対応
SPBのIEC61131-3準拠プログラミングを可能としました。
- ②SPBシステムソフトユーティリティ
SPBの基本ユニットのシステムソフトウェア（ファームウェア）をSXモード（IEC61131-3準拠言語）に更新できます。
- ③SX制御ユーティリティの機能追加
データ編集機能を拡張し、時間形、文字列形を追加しました。
バックアップファイルの読み込み、編集機能を拡張し、タブ区切りテキスト形式を追加しました。

(19) V3.0.0.0 (2002年12月)

- ①新ラダーエディタ
ラダーワークシートの表示／編集を行うラダーエディタを、従来のフリーレイアウト形式から、グリッド枠固定形式に改良しました。これによりキー操作でのプログラミングが容易に行えます。
- ②変数ワークシートのテーブル化
変数ワークシート（ローカル／グローバル）が表形式となり、変数の整理がし易くなります。
- ③プロジェクトのプロテクト機能の追加
プロジェクトに対するパスワードによる木目細かいプロテクトが可能となり、セキュリティ性が向上します。
- ④故障診断機能の改良
構成情報を確認しながら故障情報を解析できるため、故障診断が容易となります。

5. 従来品との互換性

今回のバージョンアップによるプログラムの互換性は下表の通りです。

	旧バージョンで作成のプログラム	V3.4.2.0で作成のプログラム
NP4H-SEDBV3 旧バージョン	○	△
NP4H-SEDBV3 V3.4.2.0	○	○

新バージョンの機能を使用したプログラムは、旧バージョンのExpert (D300win) では非互換が発生します。

6. バージョンアップ方法

- (1) パソコンのハードディスクに任意のフォルダを作成します。
- (2) 作成したフォルダに V3.4.2.0 用アップデートファイル「ExpertUpdateV3420.exe」をダウンロードし保存します。
- (3) ファイルをダブルクリックします。（アップデートファイルは自己解凍型圧縮ファイルです）
- (4) 作成したフォルダ内にファイルが解凍されます。
- (5) 解凍したファイルの「Setup.exe」をダブルクリックします。
- (6) インストーラの指示に従い、インストールを行います。
- (7) インストールが終わったら Expert (D300win) を立上げ、「ヘルプ」メニューの「情報」にて、バージョンが V3.4.2.0 になっていることを確認します。

プログラミング支援ツールのバージョンアップは、『Fe library』のページからダウンロードできます。

Fe library ENTER